エクアドル南部のトラバーチン

金スカルン鉱床で有名なエクアドル南部クエンカ周辺には，トラバーチンを沈澱している温泉が散在する．これらのトラバーチンは古くは建材として用いられ，現在ではセメント材料として利用されている．ここではクエンカ近郊のエル バニョス温泉のトラバーチンと，トラバーチンが利用されている建造物を紹介する．<地質調査所 鉱物資源部　渡辺　寧>

1.クエンカ市街の風景．南北方向の構造盆地中に拡がる標高2,550m,人口約20万人のエクアドル第3の都市．南緯約3°に位置するが，年平均気温14℃と気候は温和である．都市後方の山地は中新世の安山岩からなる．エルバニョスは山地と都市の間の丘陵地に位置する．▲

2.エル バニョスでは南北方向の断層(写真中央の割れ目)に沿って数カ所の温泉湧き出し口がある．トラバーチンは沸騰している温泉水から沈澱し，断層に沿ってレリーフを形成する．家の手前の小屋からも温泉が湧き出している．◀

3.温泉水から沈澱したトラバーチン．表面にはリップルマークが見られる．地下水面より上部に形成されたものは空隙が多く，下部に形成されたものは緻密な大理石となる．▶

4.クエンカ市街の中心に位置する旧大聖堂(Iglesia del Sagrario). 1557年にこの地に入植してきたスペイン人により建設された. 外壁はすべてトラバーチンから採取した大理石からなる. ▲

5.トラバーチンを用いて作られた家の壁. ▲

6.最高裁判所. 旧大聖堂と比較すると空隙の目立つやや質の悪いトラバーチンが用いられている. ▶